

被覆による夏秋レタスの生育障害防止技術

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

高原地域における盛夏期のレタス栽培では、高温・乾燥による生育障害の発生が懸念される。そこで、特性の異なる数種の被覆資材を期間を変えて(全期:定植期～収穫期、後期:結球開始期～収穫期)被覆し、上物率向上による生産安定技術を確立する。

研究の成果

- 1.被覆方法は、トンネルの両サイドを30cm開放し、通気性を高めたうきがけとする。
- 2.被覆により収穫時の球重は無被覆(露地)栽培より低下し、特に遮光率の高い資材を全期間被覆した場合は影響が大きい。
- 3.病障害株に関しては、高温・乾燥によるチップバーン・分球の発生に全ての資材で被覆の効果が認められ、無被覆(露地)栽培に較べ上物収量は増加する。病障害株の発生防止は遮光率の高い資材の全期間被覆が有効である。
- 4.収穫時の球重と生育障害の発生から、高温・乾燥の続く7月播種のレタス栽培では、無被覆(露地)栽培と比べ、球重の低下の少ない遮光率7%のタフベル3800Nの定植期～収穫期までの被覆が最も効果が高い。

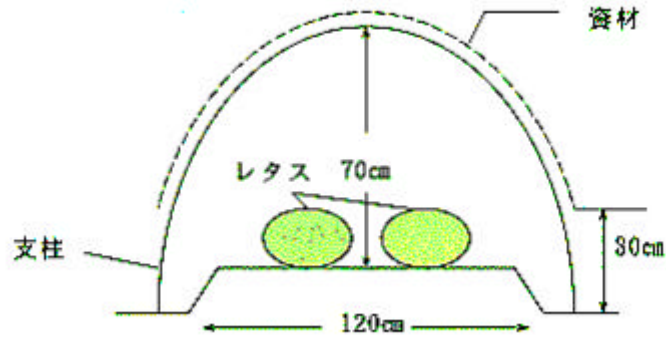


図1 被覆方法

表1 生育・収量及び病障害株の発生率 (単位: g・枚・cm・%・kg/a)

被覆期間	試験区	生育		病障害株発生率					収量		
		球重 指数	同左	欠株 球株	未結 球株	病株	チップ パーン	分球	収穫 率	上物 収量	同左 指数
全 期	無被覆	494	(100)	2.0	0	9.0	25.0	7.0	57.0	188	(100)
	タフベル3800N	461	93	2.0	4.0	2.0	0	0	92.0	283	150
	タフベル3800S	311	63	0	2.0	0	0	0	98.0	203	108
	ダイオミラー4000	410	83	0	0	0	0	0	100.0	273	145
	シルバー寒冷紗#140	371	75	0	2.0	0	0	4.0	94.0	232	123
後 期	無被覆	539	(100)	4.0	4.0	0	14.0	23.0	55.0	197	(100)
	タフベル3800N	427	79	0	2.0	2.0	7.0	11.0	78.0	222	113
	タフベル3800S	395	73	0	4.0	0	0	2.0	94.0	247	125
	ダイオミラー4000	376	70	0	0	0	0	2.0	98.0	245	124
	シルバー寒冷紗#140	401	74	4.0	0	0	0	4.0	92.0	245	124

作型：平成2年7月18日播種・8月8日定植・9月14日収穫